

## 学 会 記 事

## I. 植生学会設立総会報告

植生学会設立総会が1996年4月1日、東京農工大学農学部で開催され、以下の事項が承認された。出席者75名。

## 承認事項

## 1. 役員人事について（敬称略）

- ①会長：奥富清
- ②運営委員：伊藤秀三、佐々木寧、佐藤謙、鈴木邦雄、土田勝義、豊原源太郎、中村徹、野崎玲児、波田善夫、林一六、富士田裕子、村上雄秀
- ③編集委員長：菅沼孝之
- ④編集委員：石川慎吾、伊藤秀三、菊池多賀夫、大場達之、奥田重俊、神崎護、佐々木寧、津田智、服部保、林一六、宮脇昭
- ⑤幹事長：福嶋司、庶務幹事：星野義延、会計幹事：武田義明  
編集幹事：菊池多賀夫、会計監事：梅原徹

## 2. 企画委員会の設置について

学会の事業、特に各種シンポジウム、セミナー等の企画立案を行う企画委員会を設置する。

## 3. 1996年度事業計画について

- ①会誌等の刊行：植生学会誌は各年度2回（原則として6月と12月、各50ページ）発行する。情報誌（誌名未定）については検討中。
- ②植生学会大会（年次大会）は原則として秋に開催することとし、本年度（1996年度）大会は10月12日～14日に岐阜大学で開催する（後に10月25日～27日に変更）。

## 4. 1996年度収支予算案について

収入の部		(単位：円)
移管金（群落談話会より）		504,372
会費	正会員 6,000×220人	1,320,000
	学生会員 4,000×30人	120,000
	団体会員 10,000×6団体	60,000
雑収入（広告料など）		50,000
合計		2,054,372

支出の部		(単位：円)
刊行費	本誌 500,000×2回	1,000,000
	情報誌 300,000×1回	300,000
送料	会誌 250×256人	64,000
	会誌+情報誌 350×256人	89,600
事業費（シンポジウム開催費など）		100,000
学会事務局経費		200,000
編集事務局経費		200,000
予備費		100,772
合計		2,054,372

## 5. 学会事務局等について

学会事務局は東京農工大学農学部植生管理学研究室内に、編集事務局は岐阜大学流域環境研究センター内に置く。

## 付記

設立総会に引き続き、下記の記念講演会を行った。

1. ガラパゴスの植生 — 渡島10回を振り返りつつ — 長崎大学 伊藤秀三氏
2. 世界の湿地は今 — ラムサール会議の報告を含めて — 北星学園大学・釧路国際ウェットランドセンター 辻井達一氏

## II. 運営委員・編集委員会合同懇談会報告

1996年4月1日に開かれた標記懇談会において、企画委員会委員として佐々木寧、鈴木邦雄、中村徹、村上雄秀の4氏を選出した。

## III. 植生学会1996年度総会報告

植生学会1996年度総会が、岐阜大学で開催された第1回植生学会大会期間中の1996年10月26日に開かれ、以下の事項が報告または承認された。出席者50名。

## A. 報告事項

## 1. 事務局（庶務関係）

- ①1996年4月1日に東京農工大学農学部で植生学会総会が開かれ、役員人事、1996年度予算案等が承認された（議事内容については4月10日付文書で全会員に報告）
- ②10月25日現在の会員数は330（正会員・学生会員324、団体会員6）である。

## 2. 事務局（会計関係）

4月以降10月20日までの予算執行状況は資料（掲載略）のとおりである。

## 3. 編集委員会（10月25日開催）

- ①植生学会誌第13巻1号（5論文収録）を7月に発行した。次号の編集も順調に進んでいる。今後とも活発な投稿が要請される。
- ②植生学会投稿規定における原稿の種別からニュースレターを削除することにした。
- ③植生学会執筆要領を一部改定した（新執筆要領は第13巻2号に掲載予定）。
- ④編集委員を増員することとし、委員長が指名した橘ヒサ子、沖津進、紺野康夫の3氏を編集委員とすることを了承した。

## 4. 企画委員会（10月23日開催）

- ①委員長に佐々木寧氏を選出した。
- ②次回日本生態学会大会でのシンポジウム（生物多様性）を佐々木寧氏が、自由集会「群落談話会」を福嶋司氏が、それぞれ個人の資格で申し込むことにした。

## B. 承認事項

## 1. 各年度の収支予算案と収支決算の承認時期について

大会の折りに開かれる総会では、その年度の予算執行状況を報告し、次年度の収支予算案の承認を得る。収支決算は次年度の大会時の総会において報告し、承認を得る。

## 2. 1997年度の事業計画について

- ①基本的事項は前年度と同じであるが、そのほか企画委員会を中心にセミナー、シンポジウムの開催を検討する。
- ②第2回（1997年度）植生学会大会を10月2日（木）～4日（土）に神戸大学で開催する。（その後、開催日は10月3日（金）～5日（土）に変更された）

## 3. 1997年度収支予算案について

収入の部		(単位：円)
前期繰り越し		464,802
会費	正会員 6,000×270人	1,620,000
	学生会員 4,000×50人	200,000
	団体会員 10,000×8団体	80,000
雑収入（広告料など）		50,000
合計		2,414,802

支出の部		(単位:円)
刊行費	本誌 500,000×2回	1,000,000
	情報誌 300,000×1回	300,000
送料		200,000
事業費	(シンポジウム開催費など)	100,000
学会事務局経費		200,000
編集事務局経費		200,000
予備費		414,802
合計		2,414,802

#### 5. 情報誌について

情報誌の名称は「植生情報」とし、ニュースレターを中心に据え、シンポジウム記録、各種学術会合開催案内、会員名簿等を載せる。編集は菅沼編集委員長と神崎編集委員が担当する。

#### C. その他

来年度の大会開催地の神戸大学の武田義明氏より、大会企画の概要説明があり、多数の会員の参加が要請された。

#### IV. 第1回植生学会大会報告

第1回植生学会大会が1996年10月25日～27日、岐阜大学で開催された(下記日程)。大会参加者は170名、一般講演は32であった。

- 10月25日：編集委員会、運営委員会
- 10月26日：一般講演、総会、懇親会
- 10月27日：エクスカージョン(金華山)

大会における一般講演は以下のとおり：

- A01. 神崎護・藤井範次・山田俊弘・山倉拓夫(大阪市大・理)、地形的ニッチ分割の定量的分析：比較群落論のための試行
- A02. 石田弘明・服部 保(兵庫県立人と自然の博物館)、孤立照葉樹林および孤立二次林の種数・面積関係の比較
- A03. 西尾孝佳(東京農工大・連合農)・福嶋 司(東京農工大・農)、ブナ・ヤマボウシ群集の組成分化と群落の均質性の関係
- A04. 石橋 昇・小笠原文・竹富雄一郎(広島大・学校教育)、東広島市槌山における森林植生と土壌母材
- A05. 山瀬敬太郎(兵庫県立森林・林業センター)・小館誓治(兵庫県立人と自然の博物館)、斜面地におけるアカマツの優占状態と土壌との関係
- A06. 清水英彦・奥富 清(東京農工大・農)、竹林の拡大とその機構に関する生態学的研究IV —特に多摩地方におけるモウソウチク林の拡大と地形・土地利用型の関係—
- A07. 安島美穂・津田 智(岐阜大・流環研)・富士田裕子(北大・農・植物園)、小清水原生花園における火入れと放牧が植生に与える影響
- A08. 福嶋 司・松井哲哉・木原大太郎・萩原哲也(東京農工大・農)、東京23区の防火力診断
- A09. 濱田三賀・石川慎吾(高知大・理・生)・三宅 尚(広島大・総合科学)、土壌花粉分析による上高地梓川河辺林の動態の解析

- A10. 吉川正人(東京農工大・連合農)・福嶋 司(東京農工大・農)、鬼怒川中流域河辺のヤナギ林群落における群落構造の分化と優占種の関係
- A11. 奥田重俊(横浜国大・環境研)、富士川の河辺植生
- A12. 笠原恵美・奥田重俊(横浜国大・環境研)、多摩川中流域の植生図化と植生配分
- A13. 山本久美・石川慎吾(高知大・理・生)、徳島県黒沢湿原における主要構成種の実生の成長特性
- A14. 松村俊和(神戸大・教育学研究科)・武田義明(神戸大・発達・生)、六甲山系におけるクマノミズキの生育立地と更新機構
- A15. 新谷 彰・雨宮 永・佐藤陽子・渡邊定元(三重大・生物資源)、ハイマツ東生稚樹の種内関係
- A16. 大野啓一(千葉県立中央博物館)、日本各地における照葉樹の開芽時期—とくにシイについて—
- B01. 上條隆志(東京農工大・農)・奥富清(日本自然保護協会)、伊豆諸島におけるスタジイ林とタブノキ林の分布と動態
- B02. 武田明正・渡邊定元(三重大・生物資源)、紀伊半島南東部に位置する尾鷲地方における照葉樹林の種組成と構造
- B03. 阿部泰雄(大分市立城南中)、九州北東地域の植生概観
- B04. 星 直斗(東京学芸大大学院・連合学校教育)、丹沢山地における暖帯落葉広葉樹林について
- B05. 岡野哲郎・小林 元・井上 晋(九州大・農・演習林)、古処山山頂部の石灰岩地に成立する森林群落について
- B06. 野崎玲児・守屋恵美・佐野夏江(神戸女学院大学)、東播磨南部のススキウナケ優占型草地の植物社会学的研究
- B07. 沖津 進(千葉大・園芸)、シホテアリエ山脈北部アニュー川流域の森林植生
- B08. 伊藤秀三(長崎大・教養・生)、日韓海峡域における数種の植物の生態分布の相違と群集標徴性について
- B09. 渡邊定元(三重大・生物資源)、地球温暖化によりブナは北進するか？
- B10. 豊原源太郎・岸田章一・児島葉子・宮本和樹・高間一(広島大・理・生)、放棄水田稲作再開地における春季水田雑草群落の形成課程
- B11. 富士田裕子(北大・農・植物園)・橘ヒサ子(北海道教大・旭川)、元国指定天然記念物「静狩泥炭地」の変遷と現状
- B12. 山本聡子・福嶋司(東京農工大・農)、九十九里低地において移植した湿生植物群落の管理手法の検討
- B13. 高間 一・岸田章一・児島葉子・宮本和樹・豊原源太郎(広島大・理・生)、植生図化によるマツ枯れの研究
- B14. 中西弘樹(長崎女子短大)、海浜植生の退化と破壊度
- B15. 小林圭介(滋賀県大・環境科学)・麻生 泉・瀧華佐和子・名迫素代(都市緑地研究所)、滋賀県竹生島の植生復元について
- B16. 渡辺幹男・芹沢俊介(愛知教育大・生)・菅沼孝之(天理大・教養)、大台カ原へ他地域のトウヒを移植してもよいのか？